北関東・東北豪雨被災地から

被災地から

茨城

豪雨災害支援 ありがとうございます

全国の新婦人のみなさんから今回の豪雨災害に際し、心温まる救援募金をいただきまして、ありがとうございます。

いまも会員読者や家族の状況を訪問して声かけを続けています。まだ避難所生活を続けている会員もいて、自宅に戻って片付けをしてまた避難所に戻る生活を続けています。まだ親戚の家に避難している方もいます。「自分の家が被害にあわなかったので、外を歩きづらく全然外出してない」とか、心身ともに疲労しています。こんな時だから新婦人は集まって情報交換して励ましあっています。

床上・床下浸水、車、納屋や農機具も浸水被害にあい、土砂が流れ込んだ田んぼなど被害は相当なものです。

市の他に民主団体でつくる「吉野サポートセンター」には、県内、近県からボランティアが訪れ、ガレキの撤去や、泥出しの掃除にまだまだ人手が足りません。被災者に救済制度の情報を届けたり、新婦人の会員たちも片付けや避難所に救援物資を届けるなどボランティア活動に参加しています。

（県本部事務局長　深澤冷子）

関東・東北記録的豪雨災害 ひきつづきご支援を

〈災害援助基金、募金の送り先〉

郵便振替00150―7―74582新婦人中央本部（「台風18号被害支援の募金または会員・読者むけの基金」と明記を）

被災地から

茨城

豪雨災害から 4週間たって

台風18号に伴う鬼怒川決壊のお見舞いに深く感謝します。早速被災した会員と読者に届けました。

常総支部では翌朝より支部委員が、会員と読者の安否確認をしました。県常任委員が厳しい交通規制にもかかわらずボランティアとして水害の後片付けを手伝い、その後、会長以下役員も手伝い、被災したみなさんから大変喜ばれ「新婦人に入っていてよかった」という声が聞かれました。

床上浸水、1階水没は、家財道具、床、畳、壁、ふすま・障子など、とても住める状況になく、現在も市外の親戚で寝起きし、子どもたちを学校まで送迎している方もいます。

今回の水害被害の中、国会は戦争法を可決し、政府はTPPに合意するというニュースが入ってきました。私たちも、1日も早く、みなさんと一緒にたたかっていきたいと思っています。（2015年10月7日　常総支部支部長　冨田裕子）